

筑波大学体育会ワンダーフォーゲルクラブ

山行報告書（合宿）

山行名：九人の旅の仲間～指針は銀河の熱き志～		
日程：2006年7月24日（月）～8月7日（月）		
C.L.：大石		
メンバー：桜井（さたかしさん）、越後谷、大薮、川手、吉川、丸山、山口		
日時	場所	天候・状況・判断
前日（7/23）		
6:00	つくば駅	朝六時につくば駅に集合し、電車で出発した。
15:10	新穂高温泉	新穂高温泉に到着。前から話し合われていたわさび平まで、日行ってしまうかという議論がさたかしさんとの間に再び起こったが、前に話し合った末に前日は新穂高温泉に泊まることにしたのだし、長い移動でメンバーにも疲れが見られたので、計画通りここで一泊することにした。 ・ とまる予定だった野営所は、つぶれていた。 ・ ここは、地形の関係でラジオの電波が一切入らない。そのため天気図はとることができなかった。携帯の電波は入る。
18:14		就寝
1日目（7/24）		
3:00	新穂高温泉	起床。 雨。下界で見た週間天気予報では、この雨は2、3日続くようであったため、スライド予備日を使っても、そんなに意味はないと考えた。（山行中の晴れの日を一日増やせるかもしれないという期待はあるが、幕営地近くに店などは少なく、スライドするためには一度またバスに乗って2時間ほどかけて町に下り、今日を過ぎさなくてはならないため、そこまでのほどではないと考えた。） ⇒後から振り返ってみると、下山日の次の日が雨だったため、スライドしなくてよかったことになる。
4:30		体調不良者などもないようなので、出発した。
6:35	わさび平小屋	登山道の様子を聞くと、雪がまだ結構残っていること、橋の一つがかけられていなくて、上部までの登り、雪溪の上を歩かなくてはならないことを聞いた。

日時	場所	天候・状況・判断
13:35	鏡平小屋	初日なので、荷物がかなり重い事（雨でさらに重くなっている）、その重みにメンバーが慣れていないこと、天候が悪いため、休憩しても寒くて体力回復が望めないこと、このままのペースでは双六小屋到着予定時刻が5:30だということ、この状況（メンバーの誰もが疲労困憊）で暗くなる中歩くのはよくないということから、メンバーの所持金を確認し、小屋泊する事にした。 【行動時間 9:25（予定行動時間 6:10）】
2日目（7/25）		
4:00		起床。雨。小屋の玄関付近で棒ラーメンを作り、食べる。昨日小屋でもらったご飯の残りをおにぎりにしておいたのでそれも食べた。小屋泊でいささかみんな回復した様子。
5:40		出発
7:00	弓折岳分岐	寒い。展望も望めないので、弓折岳はカット。双六小屋へ向かう。
8:50	双六小屋	寒すぎるので小屋の中で休ませてもらうことにした。 小屋の人に聞くとまだ雪が結構残っているとの事。計画書で行くはずだった道はかなり雪があり、止めたほうがいいとの事で、エスケープルートである巻き道を使うことにした。しかし、実はそのエスケープルートのほかにもう一つ東に、三俣蓮華岳もカットできるまき道がある。当初は使う予定ではなかったため、計画書のエスケープルートには含まれていないが、そこを通ると三俣蓮華の登りが省略できる。計画書にない道を通るのはいけないことではあるが、メンバーがものすごく寒そうで、疲れていること、小屋の人に聞くと三本ある道（ルートの双六・三俣蓮華を通る道、エスケープルートの三俣蓮華だけを通る道、計画書にない道）のうち、一番状況はいいということから、その道に行くことにした。皆肩が痛そうだ。
2:00	三俣山荘	三俣山荘に着いたときに久しぶりに太陽が顔を出し、みんなシュラフなどを干した。 【行動時間 8:20（予定行動時間 4:40）】

日時	場所	天候・状況・判断
3日目(7/26)		
3:00		起床。小雨。疲れが見えるが、メンバーに体調の異常はないようなので、ご飯をたべて、出発することに。
4:50		出発。
6:48	鷲羽岳	鷲羽岳を登る途中に雨が上がった。大きな虹ができた。
8:13	水晶小屋 分岐	水晶岳に行っても何も見えないし、寒いだけと判断。小屋に向かう。
9:15	水晶小屋	小屋の中で休ませてもらうことにした。天気を聞くと、あさってからよくなる予報らしい。お茶とお菓子をだししてもらった。少し小屋に長居し過ぎた。
13:35	野口五郎 岳	風が強い。登っているとき、バランスを崩してしまう。メンバーの中には余裕がなさそうな人も居た。先頭の川手さんはさすが冬研合宿経験者である(北ア爺ヶ岳の冬件合宿は最終日がものすごい強風だった)。動じていなかった。そこにいたるまでの「南沢乗越」と呼ばれる場所は、道がよくないと聞いていたが、まったく問題なかった。
14:22	野口五郎 小屋	寒いので休憩はもう少し短めでいいのでは。という案が出た。
18:00	烏帽子小 屋	烏帽子小屋の手前では、皆かなり疲れており、(雨が降ってないのは幸いだった)40分に一本ずつ休憩を取った。到着したときは、自分も含めてみんなまったく余裕がなさそうだった。テントを建てる時も会話も少なく、まずいな、という雰囲気だった。こういうところで無理をすると事故は起こるのかも、というような雰囲気だった。 【行動時間 13:10(予定行動時間 8:20)】
4日目(7/27)		

<p>3:00</p> <p>11:10</p> <p>11:50</p> <p>13:00</p>	<p>鳥帽子岳</p> <p>鳥帽子小屋</p>	<p>起床。昨日このまま進むか、という議論をして、</p> <p>① メンバーはかなり疲れている。</p> <p>② この日の行程は危険箇所（船窪乗越）を含んでいる。</p> <p>の二点から、悪天の場合は停滞して疲れをとろうということになっていた。起きた時点で雨は強く、風も強かったため、停滞することにした。</p> <p>テレビの天気予報、天気図を見る限りでは、明日も同じような天気だろうが、三日間長い行動時間で歩き続けていること、（二日目に休めるはずだったが、鏡平小屋で一泊してしまったため、二日目も長い行動時間になってしまっていた）メンバーが疲労していることが明らかであることから、どうせ同じ天気であるなら、一日休んで肉体的にも精神的にも回復してから危険箇所を通過したほうがいいのかという判断である。</p> <p>ゆっくり寝てから、明日行くはずの鳥帽子だけに水とレーションだけ持って登ることにした。大藪と丸山はテントに残った。</p> <p>展望はゼロである。</p> <p>帰ってきてからレーションをかけてトランプなどして遊んだ。いい気分転換になったと思う。メンバーも少し元気が出てきたようだ。</p> <p>天気図に「鯨のしっぽ」らしき物が現れた。</p> <p>デザートなど重いものは早く食べてしまうことにした。荷物を軽くすることが優先である。</p> <p>[行動時間 1:50]</p>
<p>5日目(7/28)</p>		
<p>3:00</p> <p>4:22</p> <p>5:00頃</p> <p>8:08</p> <p>14:00</p>	<p>鳥帽子岳に至る分岐の手前の下り</p> <p>不動岳</p> <p>船窪岳</p>	<p>起床。雨は降っていない。風も穏やか。</p> <p>出発。</p> <p>越後谷が転んで右目の下（かすり傷）と左手（出血）に怪我をした。消毒をしてガーゼを巻き、左手にはその上から軍手をはめた。荷物（ポリタン、ガソリン、ラーメン）を分けた。</p> <p>ここに至るまでの南沢乗越は、道が崩壊しており、ヒヤッとする箇所が数箇所あった。リーダーは後ろから全員が見えるため、一人がよろけたりすると場所によってはかなりヒヤッとする。間違えて南沢岳に登ってしまった。分岐を見落としてしまったようだ。</p> <p>船窪乗越自体はあまり怖くなかった。そこ自体が危険なのではなく、その周辺一帯が危険箇所、と理解しておくのがいいだろう。</p>

14:00	船窪小屋	<p>いくつもピークがあり、読図しづらかった。甘い読図をすると精神的にもきつい。自分も余裕がなかったため、甘く読んでしまった。反省点である。危険箇所を通り過ぎると、待っていたかのように雨が降り出した。船窪乗越手前のざれたがけを下るところは、雨のとき行くとかなり怖いだろう。</p> <p>いきなりテント場が現れる。小屋までは空身で10分くらい。水場は山靴で行ったほうがいい。往復10分くらい。小屋に行く人、水を汲みに行く人、天気図を書く人にチーム分けした。</p> <p>小屋で主人に「親不知まで行く」というと、主人の名刺がもらえ、最後にたどり着く親不知温泉で温泉料と駅までのバスが割引してもらえる（あわせて1000円になる）。必ずゲットしよう。</p> <p>RPGの攻略本みたいな書き方になってしまった。</p> <p>[行動時間 12:20 (予定行動時間 7:25)]</p>
6日目 (7/29)		
3:00		起床。曇り時々雨。
4:30		出発。疲れは見えるが、第一の危険箇所をとりあえず通過したという安心感がある。
7:40	北葛岳	展望ゼロ。
12:15	蓮華岳	蓮華の大登。はじめは岩場で、ちょっとしたクライミング気分を味わえる。雨で岩がぬれていたが、そんなにすべり易い感じではなかった。雨が降ったり、そこに風が加わったりすると、一気にペースが落ちる。最後ののぼりのときに太陽が出てきた。山頂でお茶を沸かして飲んだ。
14:10	針の木小屋	テント場は奥にある。さたかしさんが「大石先に行きなよ」と妙な言い方をしたので何かあると思ったら、逸郎さんと、みっきーさんとゆうじろうさんが待っていてくれた。感激した。サラダ、肉と野菜炒め、ビールなどを振舞ってもらった。ありがたかった。サプライズ第一弾。
7日目 (7/30)		
3:00		起床。テントの外に出ると星が見えた。晴れの予感に胸を躍らせつつ用意する。
4:20		出発。
5:41	針の木岳	ここでサプライズにきてくれた皆とお別れ。晴れている。展望よし。
6:56	スバリ岳	やっと晴れたとモチベーションがあがる。
9:40	赤沢岳	

10:50 15:25	鳴沢岳 種池山荘	<p>行動時間が1.5倍かかっていることについて、次の次の日の10時間行動（しかもキレットを含む）は大丈夫かについて皆で夕食の後、テントに集まって話し合った。そこで、川手さんから、</p> <p>「冷池山荘から五竜山荘までは遠すぎるので、途中キレット小屋に一泊し、次の日は唐松の頂上小屋まで行ってはどうか」という案が出た。進むならこの案しかないという結論まで達し、最後に個人個人に進む意志があるか、を確認し、その際に不安に思うことなどを自由に言ってもらった。全員ここまで来たから最後まで行きたい。という意見を言ってくれた。不安要素としては、川手さんの膝（そんなにひどいということはなさそうなので様子を見て荷物を分けることに。）、大藪の靴（一番上の靴紐を引っ掛けるところが壊れていたため、足首がしっかり固定されなくなった。予備の靴紐で上を結び、テーピングで固定することに。）さたかしさん、吉川さんの靴擦れ（テーピングなどこれまでどおりの処置を続けてもらい、やばそうだったらすぐ言ってもらうようにした。）などがあがったが、計画を断念するような要素ではないと判断、このまま行程を続けることにした。</p> <p>[行動時間 11:00（予定行動時間 7:30）]</p>
8日目（7/31）		
5:00 6:44 7:35 10:00	爺ヶ岳何峰 冷池山荘	<p>起床。はれ。少し雲あり。</p> <p>出発。</p> <p>写真を撮ったりして少しゆっくりした。出発したときからゴールの冷池山荘は見えている。</p> <p>暇なので石を積んだり、トランプをしたり、昼寝をしたりして明日に備えた。</p> <p>[行動時間 3:20（予定行動時間 2:10）]</p>
9日目（8/1）		
3:00 5:00 5:56 7:00 9:54	布引山 鹿島槍ヶ岳南峰 キレット小屋	<p>起床。曇り時々雨。後に晴れ。</p> <p>出発。</p> <p>寒い。だがここまでのコースタイムはなかなかいい。</p> <p>寒い。手がかじかむ。さたかしさんはめがねが曇って見えづらそう。めがねの人にはコンタクト・レンズを勧めてみるとういだろう。</p> <p>なんとあっさり行動時間通りついてしまった。先に進もうかともちらと考えなかったわけではないが、皆で話し合っただけで決めたこと</p>

		<p>だし、天気予報では夕方から崩れるといていたので（実際はこの後ものすごく晴れたのだが・・・）無理することはないと思い小屋に入った。</p> <p>ここにいたるまでの八峰キレットは、高度感の味わえるはしごや狭い通路はあるものの、ゆっくり慎重に歩けば問題なかった。ただ、途中の看板に何回も書いてあるとおり、<u>崖のほうの草などに足を乗せると、踏み抜いてしまう危険性がある</u>ので、そこは注意が必要だろう。</p> <p>小屋泊は高いけど時々やると楽しいし余裕が出る。計画段階でテント泊だけにとらわれず、小屋泊も視野に入れてみると長期をもっと楽しめるのではないかと思う。</p> <p>小屋の人にご飯をもらった。筑波大学のOB（ワングルではない）に会った。</p> <p>[行動時間 5：00（予定行動時間 4：50）]</p>
10日目（8/2）		
3：00		起床。昨日もらったご飯をカレー粉などを混ぜてラーメンスープを加えていたため、チャーハンにして食べた。
4：40		明るくなるのを待って出発。
10：10	五竜岳	エアリアに危険箇所のマークがついているが、そこまで危険という感じはなかった。慎重にゆっくり行くといいだろう。団体客とすれ違うときは安定した場所を選んでとまろう。 <u>逆に待ってもらっているときも、あせる必要はない</u> 。あっちも休憩できるだろうというような心構えで急がずゆっくりいこう。最後に多少急な登りがあったが、それを越えればすぐ山頂だ。
11：40	五竜山荘	下りもまあまあいやな感じ（手を使わないと怖いくだりなど）ではあるが、雨で岩肌がぬれていないのなら問題はない。
15：25	唐松頂上 小屋	小屋の手前ののぼりがきつい。最後の最後で少し危険な細い岩場がある。 <u>小屋が見えたからといって気を抜かないよう注意</u> 。小屋からテント場までかなり下る。水場はそのまた下の雪渓から汲む。冷たくておいしい。小屋の裏の展望台から剣岳がきれいに見える。夕方などに見に行くと◎。後ろには町の夜景も少し見える。デートスポット。うるさい中学生の団体（推定100人）さえいなければ。
11日目（8/3）		
3：00		起床。はれ。
5：00		出発。

5:20	唐松岳	カップをぬぐ、日焼け止めを塗るなどする。
7:30	不帰キレット (の看板があるところ)	二峰南峰、二峰北峰の看板あり。北峰の看板の直後から鎖場が始まる。 <u>看板のところで休憩してここから集中するといいだろう。</u> 北峰の看板から不帰キレットの看板の箇所まではそんなに怖いところはない。ただし晴天の場合。 <u>風が強かったり、雨が降って岩肌がぬれている場合があるときは、停滞も考えたほうがいいだろう。</u>
8:08	二峰と一峰のコル	二峰の最後のくだりが不帰のキレットのクライマックスという感じだ。かなりの高度感があり、「落ちたら死ぬな」という感じがする。しかしスタンス (手で持ったり、足の置き場になたりするところ) はしっかりしているので、ゆっくり慎重に行けば (そればかり言っているようだが、本当のことだから仕方ない) 問題はないはずである。人が多いときも、待ってもらっているからとあせらずにゆっくりといこう。時間で命は買えないのだから。 <u>石を下に落とさないことにも注意しよう。同時に上から石が落ちてくるかもしれないという意識も重要だ。</u>
11:30	天狗山荘	天狗の大登はかなり疲れるが、適度に休憩をとっていけばペースを崩さず登れる。 意外に早くついて昼寝していると、「〜〜、落雷ー！」と聞こえた。寝ぼけながら目を覚ましてよく聞くと、「大石ー！桜井ー！」といていた。手島さん、純司さん、とらさんがきてくれた！サプライズ第二段。ギョーザとキャベツ、豚肉、トマトの蒸し焼き、トマト、桃、ぶどうをもらった。うますぎる。二回も来てもらえるなんて今年は皆幸せ者過ぎる。 水が豊富。冷たくてうまい。 [行動時間 6:30 (予定行動時間 5:40)]
12日目 (8/4)		
4:00		起床。晴れ。
5:30		手島さんたちとともに出発。すぐその分岐で別れを告げる。
6:30	鉢ヶ岳	下ってくるはずの分岐のほうにザックをおいて、頂上に上った。
7:45	杓子岳	2:25 ゆっくりして、昼寝した。携帯が通じる。
11:00	白馬宿舎	郵便局がある。家族に手紙を出す人もいた。サプライズしてくれた人たちに感謝の手紙を出す。常駐隊の人に話を聞くと、鉢ヶ岳のトラバースにまだ雪が若干残っているとのことだった。 [行動時間 3:05 (予定行動時間 2:50)] ←杓子の休憩含まず。

13日目 (8/5)		
3:00		起床。晴れ。
4:25		出発。
5:00	白馬岳	朝日がきれいだった。
7:20	雪倉避難小屋	トイレ休憩のため立ち寄る。小屋に落ちていたソーセージを食べて腹痛になった人がいた。下界で聞くとそんなばかなと思いかもしれないが、レーションが少なくなる長期後半では、落ちているものでも口にしてしまう状況がある (いやほんとうに)。もしそういう状況になって、それがやばそうだと思うたら、こういう前例があることを示して論じていただきたい。
8:15	雪倉岳	
13:05	朝日小屋	水平道は開通していた。まあまあ雪は残ってはいたが、通行に支障をきたすほどではない。雪溪で休憩時に持っていた練乳を使ってかき氷を作った。小屋にまきさんの置手紙があった。三千円同封されていた。ありがたかった。元気付けられた。サブライズ第三弾。水が豊富。 次の日の予定を話し合った。荷物が軽くなってきたせいか、ここ数日なかなかいいペースで来れているので、初めから黄蓮の水場に幕営するという意見もあったが、白鳥小屋を目指すことになった。(スタート時はとにかく白鳥小屋まで行くつもりで。北俣の水場まで行って、判断。) [行動時間 8:40 (予定行動時間 7:10)]
14日目 (8/6)		
3:00		起床。風もなく、星が見えている。
4:10		出発。
5:00	朝日岳	完全にペースオーバーだった。白鳥小屋まで行く！と昨日話し合っていたときに、用意などもできる限り急いでいく。というようなことを言っていて、チーム全体にあせりを生んでしまった。そして、少し早いなと思ったときにすぐ「いつものペースで行こう」と言えればよかった。あせりは禁物。行程が長ければ長いほど、あせりがちだが、最初飛ばしては後が持たない。
10:45	北俣の水場	急登の手前にある。看板が地面に貼り付けてあるので簡単に分岐が見つかる。片道5分程度。

12:10	つがみ小屋	中に人はいない。水場がないので幕営予定地に入っていないが、北俣の水場で汲んでいけばよい。メンバーの体調はよさそうだ。暑いが進むことに。
13:15	黄蓮の水場	見やすい看板がある。看板の分岐から右へ。片道3分程度。水場というか沢。看板付近で幕営できる。つがみ山荘からここまでのくだりがきつい。足に来る。
17:30	白鳥山荘	ここで越後谷が少し頭痛がするといった。おそらく暑さのせいで熱中症になりかけていたのではないかと。粉ポカリを作って飲んでもらう。少し休んだら大丈夫といったので、先に進んだ。ここまでの完全にばててしまった。黄蓮の水場からアップダウンがあり、最後の上りがきつい。心してかかろう。山荘の屋根の上にはしごで上れる。ここに来てはっきりと日本海が確認できるだろう。夕日のうつる日本海を眺めながら、これまでのたびを思い返す。 無人の山荘なので小屋のなかでもただで泊まれるが、テントで寝た。V4のポールがここに来て折れた。最終日でまだよかった。 [行動時間 13:20 (予定行動時間 11:20)]
15日目(8/7) 最終日		
3:00	日本海	起床。天気晴れ。星が見える。今日の行動時間は短いですが、涼しいうちに降りようという話になり、いつもどおり3時におきた。
5:00		出発。少しだらだらした感じになってしまった。
11:00		感動は言葉で表せない。実際行って見た人だけがわかる。最後の鉄塔で道を間違えやすいという話だったが、今年は看板が立っていた。「日本海、こっち」の看板。 あーーー・・・、長かった。長期も、報告書も。 [行動時間 6:00 (予定行動時間 4:10)]